

# 2016 文部科学大臣杯 JAPANKART CUP with HDX

開催コース/筑波サーキット (茨城県)  
主催/日本スーパーカート協会  
開催日/5月29日  
天候/晴れ 路面状況/ドライ  
Report&Photo/月刊 JAPAN KART



◀クラス優勝こそ成し遂げた生方だったが、信号合図違反というミスにより30秒のペナルティに。クラス優勝も吹き飛ばすほど本当に悔しい結果になってしまった



▶ KT100 クラスで開幕戦ウィナーに輝いた千吉良伶。今シーズンはフル参戦を予定している



▲オープニングラップでいきなりのマッチレースを展開した橋本隼 (左) と佐藤那未



▲KT100 クラスはボルジャ・ダグラスが初勝利をゲット。新型シャシーでの挑戦だった



▲コースアウトした車両回収のために投入されたセーフティカーに続くマシンたち。それぞれに存在していたリードがなくなり、一旦、レースはリセットされることに。この間にピットインしていくマシンも多かったようだ



▲迫力満点のWR250 で優勝したのが学生時代の友人同士で結成したチームトマホークだ

ジャパンカートカップ第2戦は開幕戦同様、茨城県・筑波サーキットにて5月最後の日曜日に開催。

今回、エントリーしたのは18チームでいつも通り、KT から WR250 まで幅広い種類のエンジンを搭載したマシンが集結した。

まず、オープニングラップで勢いよく飛び出したのが HDX オープンの橋本隼と佐藤那未の2台だ。両者はマッチレースを繰り返し、次第にそこへ他クラスも参入して混戦状態になる。

レース中盤、コースアウトした車両回収のために、セーフティカーが投入された。このイレギュラーの事態にピットインのノルマを稼ごうとピットへ急ぐマシン群。

リスタート後はYZ85を愛用するミッシェンの生方靖亜がハイペースで周回を重ねていく。最後まで快走を続けた生方だがしかし、ピットアウト時に赤信号でコースインする痛恨のミスをしていった。それは青に変わる3秒前というタイミングだったという。

これで30秒のペナルティが科せられてしまい総合トップでチェッカーをくぐるも降格に。代わって総合優勝はYZ125の吉原祐一となる。50周を走破して最高の成績をマークした。